

**日本万国博覧会記念公園の
活性化に向けた将来ビジョン2040
(案)**

2022年9月

大阪府

目次

はじめに	…	1
1.日本万国博覧会記念公園の変遷	…	2
(1) 経緯	…	3
(2) 日本万国博覧会の概要	…	4
(3) 日本万国博覧会記念公園の歴史	…	5
2.万博記念公園の現状	…	10
(1) 万博記念公園	…	11
(2) 大阪万博のレガシー	…	13
(3) 万博の森づくり	…	14
(4) 公園の利用状況	…	15
(5) その他	…	18
3.2015年11月策定の将来ビジョン（旧ビジョン）の概要	…	19
(1) 旧ビジョンの概要	…	20
(2) 旧ビジョンの主な成果	…	21
4.社会状況の変化への対応	…	24
(1) 社会状況の変化と求められる対応	…	25
(2) 新たな将来ビジョンに盛り込む視点	…	26
5.日本万国博覧会記念公園の活性化に向けた将来ビジョン2040	…	27
(1) さらなる活性化に向けた考え方	…	28
(2) ゾーニングの再確認と取組みエリア	…	30
(3) 目標・基本方針	…	31
(4) 計画期間等の考え方	…	37
6.さらなる活性化に向けたロードマップ	…	38

はじめに

1970年3月15日から9月13日にかけて、「人類の進歩と調和」をテーマに、万国博史上初めて世界の過半数を超える国々が参加した日本万国博覧会が開催されました。「太陽の塔」や「お祭り広場」等が設けられたシンボルゾーンを中心に、海外76カ国4国際機関等による84パビリオンと日本館ほか国内参加32パビリオン、合計116もの個性的なパビリオンが設けられ、183日間の期間中、世界中から6,421万8,770人にもものぼる人々が訪れる等、それまで誰も見たことのない史上最大のイベントとなりました。

「日本万国博覧会記念公園」は、その博覧会の跡地に、太陽の塔など博覧会の遺産を残しつつ、「緑に包まれた文化公園」として整備が進められてきた公園です。1972年に日本万国博覧会記念協会が公園の整備・運営を開始した後、公園は2003年に独立行政法人日本万国博覧会記念機構に継承され、2014年4月に大阪府に受け継がれました。継承に伴い、大阪府は2015年11月に「日本万国博覧会記念公園の活性化に向けた将来ビジョン」を策定し、公園の活性化に向けた取組みを進めてきました。

このような中、インバウンド需要の増大と新型コロナウイルス感染症の感染拡大、約50年ぶりに再び大阪で開催される2025年大阪・関西万博、国際目標であるSDGs達成に向けた取組みの進展、DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進等、公園を取り巻く社会状況は将来ビジョン策定時から大きく変化してきました。このような社会の変化に対応しつつ、公園のポテンシャルを最大限に発揮して、さらなる活性化を図るため、「日本万国博覧会記念公園の活性化に向けた新たな将来ビジョン」について、大阪府日本万国博覧会記念公園運営審議会に諮問し、このたび、答申を得たところです。

本ビジョンは、答申の内容を踏まえ、長年にわたって守り育まれてきた万博のレガシーを次世代にしっかり継承していくとともに、大阪万博を記念する緑に包まれた文化公園として、国内外に広くその魅力を伝え、より多くの方に利用していただけるよう、未来を見据え、大阪府の取組みの基本的な考え方を取りまとめました。

本ビジョンにより、万博記念公園の社会的位置づけを明らかにし、さらなる活性化につなげるとともに、その取組みの成果をSDGs達成への貢献や大阪万博100周年等の未来へとつなげていき、めざすべき公園像である「緑と文化・スポーツを通じて人類の創造力の源泉である生命力と感性が磨かれる公園」を実現させていきます。

2022年9月

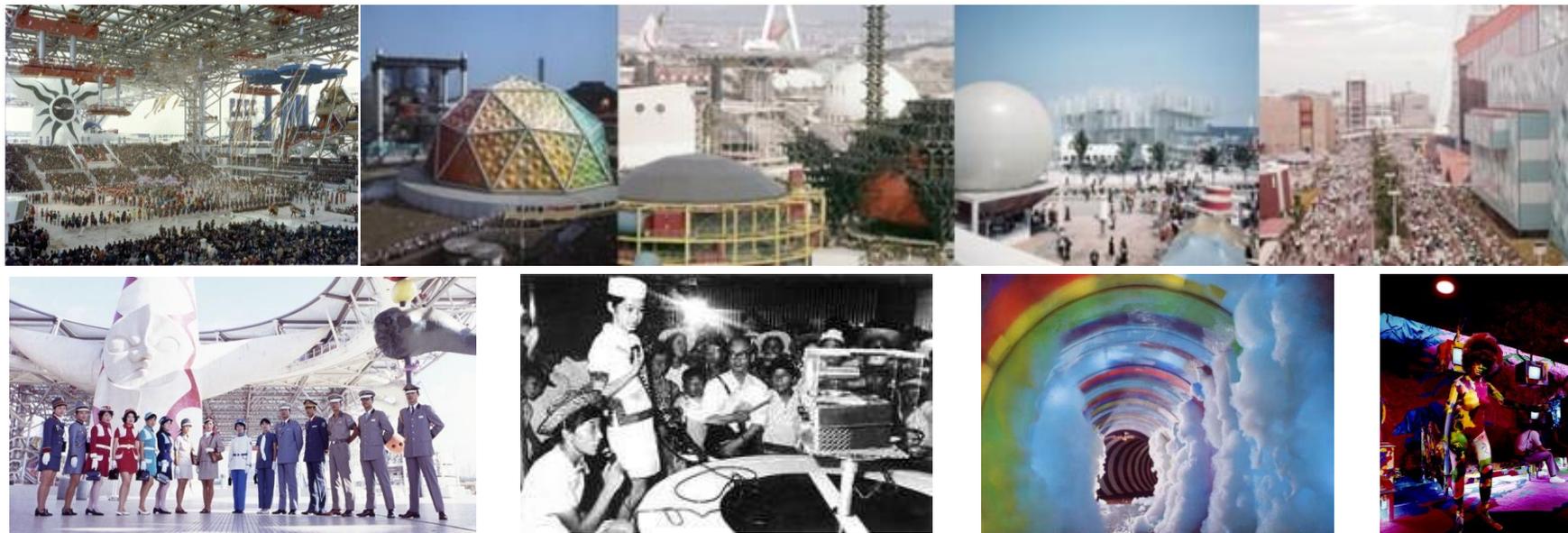
1.日本万国博覧会記念公園の変遷

(1) 経緯

- 1970年3月15日 「人類の進歩と調和」をテーマに日本万国博覧会開催（～9月13日）
- 1971年7月1日 日本万国博覧会記念協会法施行
- 1971年9月1日 日本万国博覧会記念協会設立
 - ・1972年度～ 第1次整備事業：「『跡地』から『公園』への転換」
 - ・1980年度～ 第2次整備事業：「公園機能の向上」
 - ・1994年度～ 第3次整備事業：「公園の充実、活性化」
- 2002年12月4日 独立行政法人日本万国博覧会記念機構法施行
- 2003年10月1日 独立行政法人日本万国博覧会記念機構設立
 - ・2003年度～ 第1期中期計画：緑に包まれた文化公園として、広く国民に提供、文化活動等の支援を行う
 - ・2008年度～ 第2期中期計画：万博記念公園の適切な運営と環境問題解決に寄与
 - ・2013年度～ 第3期中期計画：第2期中期計画の継続、機構の廃止を視野に財産関係の整理等を進める
- 2013年12月24日 大阪府日本万国博覧会記念公園条例制定（大阪府条例第102号）
- 2014年2月10日 日本万国博覧会記念公園の活性化に向けた将来ビジョン（施設整備及び運営）について、大阪府日本万国博覧会記念公園運営審議会に諮問
- 2014年4月1日 独立行政法人日本万国博覧会記念機構から、大阪府に移管
- 2015年1月30日 「日本万国博覧会記念公園の活性化に向けた将来ビジョン（施設整備及び運営）」答申
- 2015年11月6日 「日本万国博覧会記念公園の活性化に向けた将来ビジョン」策定
- 2021年7月16日 「日本万国博覧会記念公園の活性化に向けた新たな将来ビジョンについて」諮問
- 2022年9月12日 「日本万国博覧会記念公園の活性化に向けた新たな将来ビジョンについて」答申

(2) 日本万国博覧会の概要

会期	1970年3月15日（日）から9月13日（日）までの183日間
海外参加	76カ国、4国際機関、1政庁（香港）、アメリカ3州、カナダ3州、アメリカ2都市、ドイツ1都市、2企業
国内参加	32団体、展示館32館
入場者数	6,421万8,770人
会場面積	330ha
展示施設数	119（テーマ館、日本庭園及び万国博美術館を含む）



日本万国博覧会（以下、「大阪万博」）は、宇宙技術、コンピューター、原子力等当時の最先端テクノロジーをはじめ、最新製品のショールームの場として、電気自転車、電気自動車、携帯電話、テレビ電話、モノレール、リニアモーターカー、キャッシュレス・ショッピング等がお披露目されました。

また、ユニークな造形のパビリオン群とその内部で展開された光と音と映像のシンフォニー、来場者の案内誘導や展示物の説明にあたったスタッフ、そして、いたるところで展開された前衛芸術群が会場を彩りました。

(3) 日本万国博覧会記念公園の歴史

①大阪万博の基本理念及びテーマ

基本理念（抜粋）

技術文明の高度の発展によって、現代の人類は、その生活全般にわたって根本的な変革を経験しつつあるが、そこに生じる多くの問題は、なお解決されていない。多様な人類の知恵がもし有効に交流し刺激しあうならば、そこに高次の知恵が生まれ、異なる伝統のあいだの理解と寛容によって、全人類のよりよい生活に向っての調和的発展をもたらすことができるであろう。

テーマ

統一主題 人類の進歩と調和

サブ・テーマ

第1主題 よりゆたかな生命の充実を

第2主題 よりみどり多い自然の利用を

第3主題 より好ましい生活の設計を

第4主題 より深い相互の理解を

大阪万博の基本理念、テーマ及びサブ・テーマは、東京大学前学長の茅誠司委員長、京都大学教授の桑原武夫副委員長のもと、京都大学の梅棹忠夫等をブレンとするテーマ委員会及びサブ・テーマ専門調査委員会の手によって策定されたものです。

大阪万博とは、単に技術文明の進歩をうたいあげるのではなく、その進歩がもたらす様々なひずみにも目を向けることで、第2次大戦後の万国博が一貫してとりあげてきた、人間性復活への関心をより高い次元へ発展させよう、と試みた世界の祭りでした。

②大阪万博 会場基本計画

大阪万博の開催地として選ばれた場所は、千里丘陵の東に位置する旧山田村であり、大都市に近く、鉄道、空路の便もよい場所でしたが、当時ほとんど未開発のまま残されていた土地でした。

この土地のうえに立案された会場の基本計画は、原案の前半を京都大学西山外三グループが担当し、後半を東京大学丹下健三グループが引き継ぎ発展させたものでした。

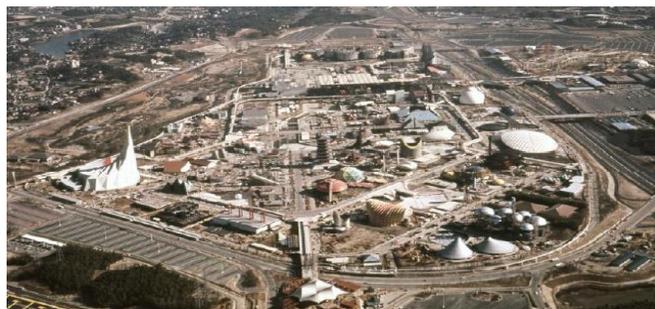
会場は、その空間構成が直接的にテーマを展開する場となるよう、中心部に位置するシンボルゾーンでテーマを集約的に表現し、そこから四方に広がる動く歩道沿いにサブ・テーマが展開されました。

また、会場全体を樹木にたとえ、基幹施設である南北のシンボルゾーンと動く歩道を樹木の幹と枝ととらえ、各国や各企業のパビリオンがそこに咲く花となるよう、すり鉢状の地形を巧みに生かして施設が配置されました。

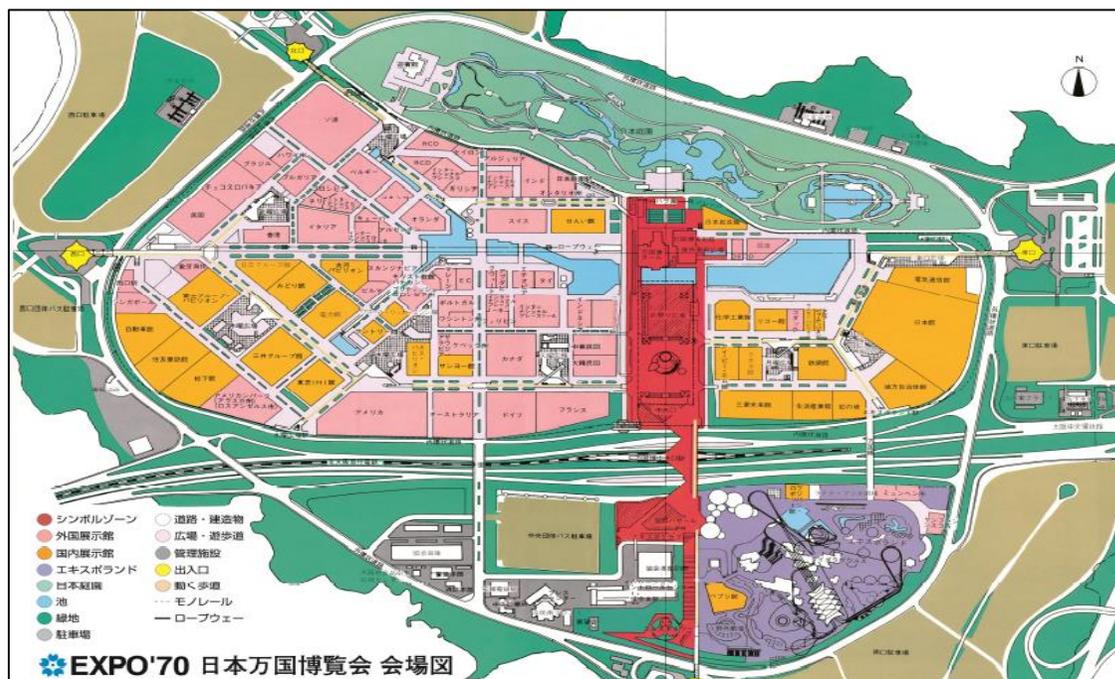
さらに、テーマの精神を生かし、より人間的な未来都市のコアのモデルとなるよう、動線の処理が図られました。



開催前



1970年



【出典】公式ガイド

③大阪万博 テーマ館

テーマ展示プロデューサーの岡本太郎は、会場基本計画の精神を活かし、それをさらに推し進めるため、テーマ「人類の進歩と調和」を冷たい観念としてではなく、なまの体験、人間生命の爆発的な高まりとして、すべての人々に実感してもらえよう、テーマ館の構成を行いました。

展示空間は「太陽の塔」を中心として、人間の過去・現在・未来を表す、地下・地上・空中の3層にわかれしました。地下のスペースは「過去・根源」の世界を、地上展示は「現在・調和」の世界を、そして丹下健三の「未来都市・大屋根」を突き抜けその内部で展開された空中展示は「未来・進歩」の世界を、それぞれ象徴し、具体化されました。

このように、「人類の進歩と調和」というテーマの下、「未来都市」を構想した丹下健三と、「原始時代からの人類の歩みや生命のエネルギー」を表現した岡本太郎という、まったく異なる価値観をあえて融和させたことが、大きなエネルギーとなり、万博の成功につながったと言われています。

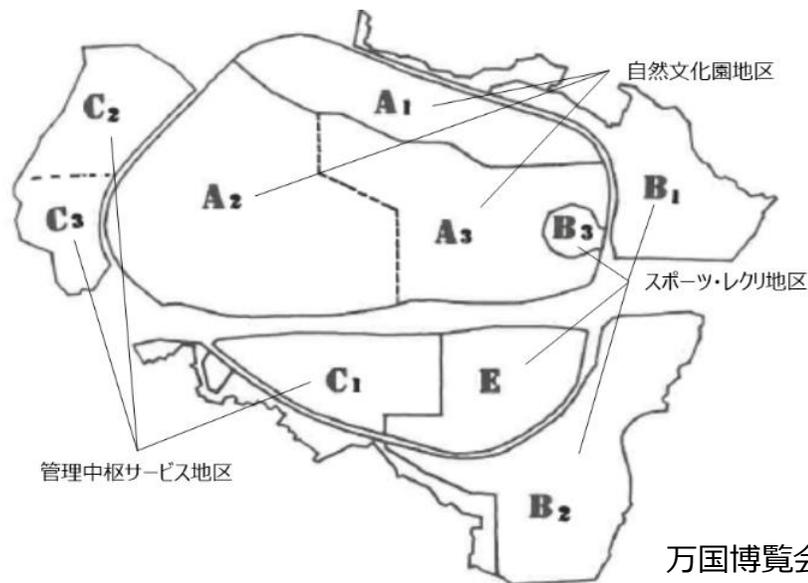


④大阪万博の跡地利用

大阪万博の会場跡地については、「日本万国博の開催を記念するにふさわしい緑に包まれた広い意味での文化公園として利用すべき」という、1970年万国博覧会跡地利用懇談会の答申を受け、東京大学高山英華のもと、1972年に「万国博覧会記念公園基本計画報告書」がまとめられました。

未来都市における「人類の進歩と調和」に替えて、大屋根と太陽の塔を撤去し、緑と文化活動を通して「人類の進歩と調和」をめざすべき、という報告書の提案を受け、日本万国博覧会記念協会は「日本万国博覧会記念公園基本計画」を策定し、造成地に多様な自然生態系を再生することを決定するとともに、大屋根と太陽の塔については「当分の間、公園のシンボルとして存置し、この間に、存廃について検討する」こととしました。こうして、日本万国博覧会記念公園（以下、「万博記念公園」）は、1972年から順次整備が進められました。

また、大屋根と太陽の塔は、1975年の万国博施設処理委員会の答申において「日本万国博の記念建造物として存置するにふさわしい」とされ、太陽の塔は恒久的に設置することとなりましたが、大屋根については技術上の課題があり、「いずれは解体撤去せざるを得ない」という答申を受け、解体撤去のうえ、スペースフレームの一部のみを地上に下ろし、保存されることとなりました。



		面積(HA)			
自然文化園地区 126 HA	A ₁	26	日本庭園	} 自然生態地区(88.0)	}
	A ₂	62	パビリオン地区西		
	A ₃	38	パビリオン地区東		
スポーツ・レクリ地区 81 HA	E	21	エキスポランド	} 文化施設地区(42.0)	}
	B ₁	24	東駐車場跡北		
	B ₂	32	東駐車場跡南		
管理中枢サービス地区 39 HA	B ₃	4	日本館敷地		
	C ₁	19	南地区		
	C ₂	10	西駐車場跡		
その他 18 HA	C ₃	10	ゲート跡		
	計	264 HA			

万国博覧会記念公園基本計画 土地利用区分図



1971年



1980年



1995年



2000年



2011年

2.万博記念公園の現状

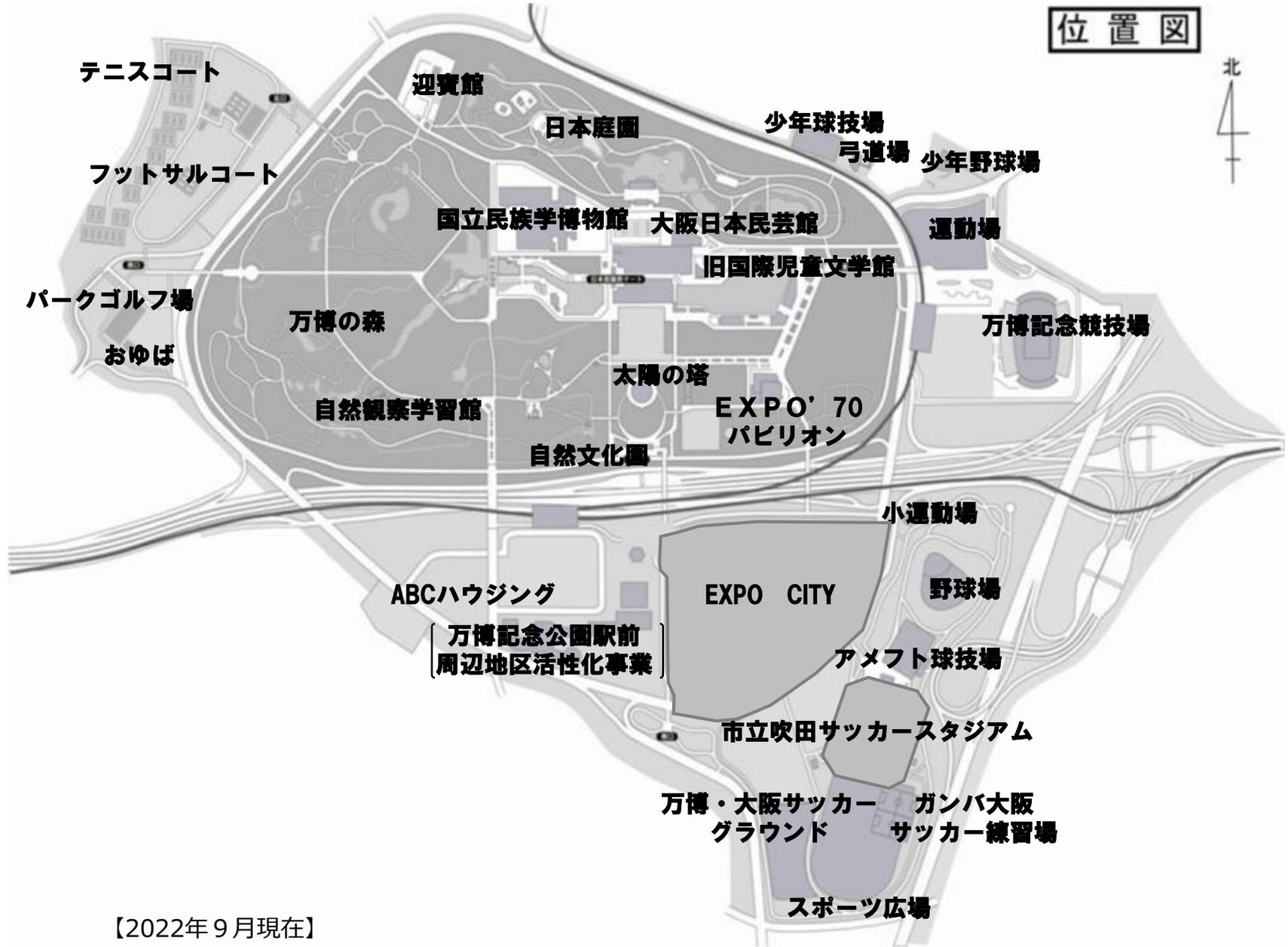
(1) 万博記念公園

万博記念公園は、大阪万博のレガシーを受け継ぎ、大阪万博跡地の広大な敷地（約258ha：国有地約130ha、府有地約128ha）を活用した、「緑に包まれた文化公園」として、約130haの自然文化園地区及び約70haのスポーツ地区、並びに民間事業者が管理運営する約58haのその他地区から構成されています。

		主な施設
自然文化園地区 (国有地 約130ha)	日本庭園 (約26ha)	庭園 茶室「汎庵、万里庵」、茶室「千里庵」 迎賓館(※)
	自然文化園 (約99ha)	太陽の塔、お祭り広場、公園西側に広がる森、もみじ川広場、東の広場、上の広場、下の広場、わくわく池の冒険ひろば、ほうけん海のひろば、やったねの木、平和のパラ園、ソラード（森の空中観察路）、万博おもしろ自転車広場、サイクルポート、バーベキュー場、レストラン Park Café、万博 BEAST
		EXPO'70パビリオン 自然観察学習館
	文化施設 (約5ha)	国立民族学博物館(※) 大阪日本民芸館(※)
	その他	旧大阪府立国際児童文学館(※)
周辺地区 (大阪府有地 約128ha)	スポーツ地区 (約70ha)	〈東地区〉万博記念競技場、運動場、少年球技場、少年野球場、弓道場、大阪府北部広域防災拠点(※)
		〈南地区〉野球場、小運動場、スポーツ広場（軟式野球場 4面、ソフトボール場1面）、総合スポーツ広場、小広場、アメリカンフットボール球技場(※)1面、ガンバ大阪サッカー練習場(※)2面、OFA万博フットボールセンター(※)2面、市立吹田サッカースタジアム(※)、子供の遊び場、南口ちびっこ広場
		〈西地区〉テニスコート 36面、フットサルコート 4面、西口ちびっこ広場、パークゴルフ場
	その他 (約58ha)	万博記念ビル(※)、EXPO CITY(※)、ABCハウジング千里住宅公園(※)、万博おゆば(※)

※印は、府立万博記念公園外（指定管理者の管理対象外）の施設

位置図



【2022年9月現在】

(2) 大阪万博のレガシー

万博記念公園は、太陽の塔に代表される大阪万博のレガシーに加え、「人類の進歩と調和」や「未来への実験場」、「人類交歓の場」及び「万博芸術」といった大阪万博の理念を受け継いでいます。

太陽の塔



「人類の進歩と調和」を具現化するテーマ館であった、岡本太郎の巨大な芸術作品です。大阪万博、また万博記念公園のシンボルとして、圧倒的な存在感を示しています。

大屋根・お祭り広場



上田篤が設計したお祭り広場、丹下健三が設計した大屋根は人類交歓の場を提供することで「人類の進歩と調和」を実現する施設となりました。

EXPO'70パビリオン



大阪万博40周年記念事業として、出展施設であった旧鉄鋼館を改修し、大阪万博のアーカイブ館としてリニューアルオープンしました。博覧会の準備から、開幕、会期中、閉幕の状況を、当時の映像や資料等で観覧できます。

日本庭園



政府出展施設として、日本の造園技術の粋を披露するとともに、自然、緑の憩いの場を提供した名園です。上代、中世、近世、現代の作庭様式を一堂に見ることができます。

大阪日本民芸館



庶民の暮らしの中で培われた「民芸品」の美を紹介するため出展した「日本民芸館」を引き継ぎオープン。国内外の陶磁器や染織品等各地の優れた工芸品を展示しています。

イサム・ノグチの噴水群



「宇宙空間の夢」と題して、イサム・ノグチにより造られた、現代彫刻と当時の噴水技術が一体となった噴水群であり、現在はオブジェとして残されています。

その他の芸術作品、映像、写真、音声等



堂本印象「手をつなぐ」等の芸術作品や、大阪万博の歴史を伝える貴重な資料である映像・写真・音声関係資料約14万点と文書・物品関係資料約5万点が保管されています。

(3) 万博の森づくり

万博記念公園の森は、「日本万国博覧会記念公園基本計画」に基づき、2000年までの長期プログラムのもと、「自立した森づくり」の取組みが行われ、2015年の将来ビジョンの策定にあたり、毎年少しずつ人の手を加えて、長期的に生物多様性が豊かで、多様な景観を有する森への転換を図ることをめざしています。

以降、森づくりの試行を開始し、小規模な伐開や苗木の植栽を行い、2020年には樹林のタイプに合わせた具体的な森づくりの手法やスケジュールを定めた万博の森育成計画に基づく新たなる万博の森づくりを開始しました。



森づくり試行実施

(本数の多い高木を伐採し、低木が育ちやすい明るい環境をつくる)



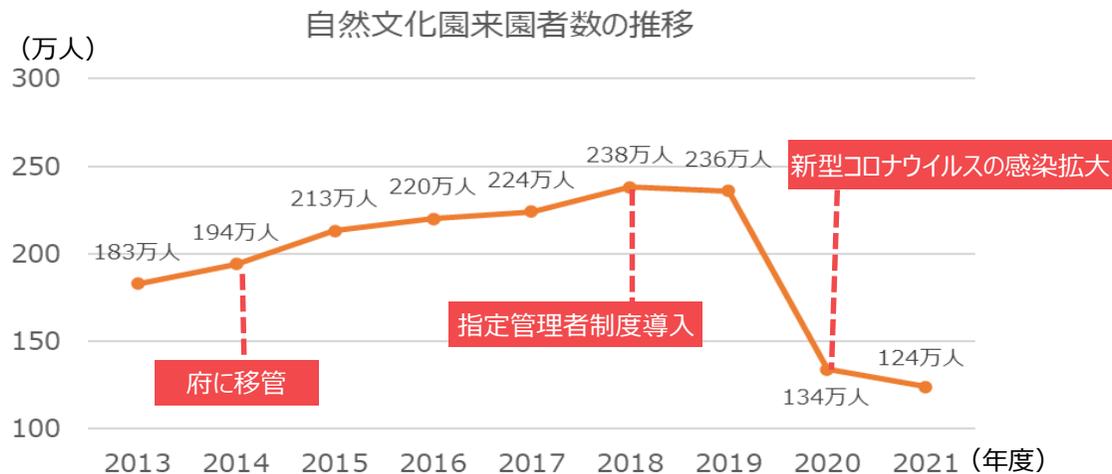
森の様子

(展望台から見た万博の森)

(4) 公園の利用状況

① 来園者数

自然文化園の来園者数は、大阪府が公園を継承した2014年度以降、順調に増加してきました。2018年度には約238万人と過去最多を記録しましたが、2020年度以降は新型コロナウイルスの感染拡大により来園者数は減少しています。



(単位：人)

各施設の利用者数

	自然文化園	太陽の塔	EXPO'70パビリオン	日本庭園	大阪日本民芸館
2013年度	1,834,608	-	83,744	252,478	7,597
2014年度	1,942,227	-	103,759	243,079	6,457
2015年度	2,130,987	-	178,416	227,578	7,474
2016年度	2,207,190	-	62,653	261,760	5,840
2017年度	2,245,365	-	58,029	247,299	6,912
2018年度	2,387,023	327,467	104,447	223,606	8,410
2019年度	2,365,511	281,838	105,620	248,871	7,837
2020年度	1,345,167	102,596	43,652	220,691	5,506
2021年度	1,241,110	131,782	64,040	179,672	2,793

② イベントの実施

【2019年度実績】 継続イベント

(例示)

桜まつり	万博イルミナイト夕涼み
チューリップフェスタ	ウッドストック愛と平和の3日間
ポピーフェア	Enjoy Honda
超人スポーツ	UUUM
ロハスフェスタ	万博記念公園入園無料デー
日本の春咲えびね展	In memory of EXPO'70 万博へGO!with MBS
FM802 FUNKY MARKET	秋の山野草展
カレーEXPO	コスモスフェスタ
私の大阪万博・2025への期待	大阪文化芸術フェス
プラスエキスポ	大阪パフェ
ジャーマンアイリス展	チーズEXPO
ローズフェスタ	紅葉まつり
City Trial Japan	関西文化の日
OUTDOOR PARK	ABCラジオまつり
蛍ノタバ	エコデンレース
ストライダーCUP	痛車天国
あじさい祭り	ラーメンEXPO
早期観运会&象鼻杯	イルミナイト万博Xmas
MOTOR CAMP EXPO	梅まつり・つばき祭
野外コンサート(MEET THE WORLD BEAT)	私の大阪万博・70年の思い出
GO OUT MUSIC CAMP	万博記念公園ふれあいの日
ひまわりフェスタ	稲妻フェスティバル
万博夏あそび	ガレージセル
泡フェス	
「太陽の塔内部再生事業」 太陽の塔 夏のお笑い大盆踊り	

【その他記念イベント等】

太陽の塔内部公開記念イベント（2018年3月18日）

1970年大阪万博50周年記念セレモニー（2020年10月10日）

ドライブインシアター オープニングイベントの実施（2020年8月） など



大阪文化芸術フェス



紅葉まつり



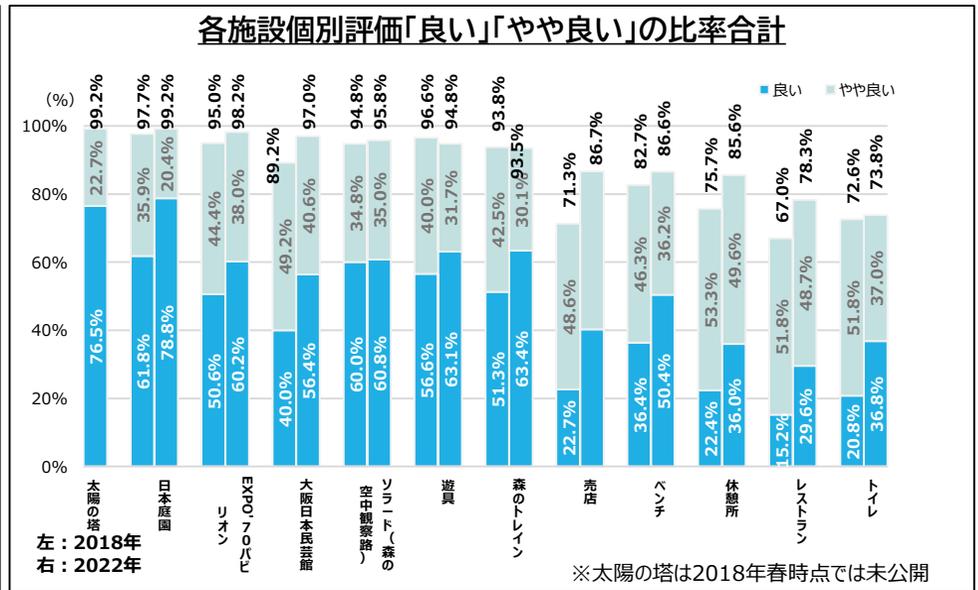
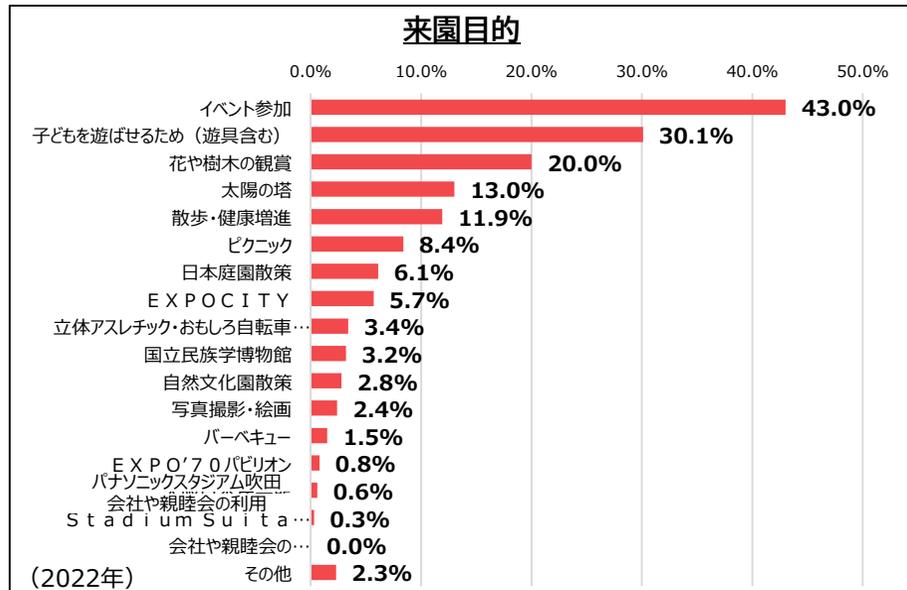
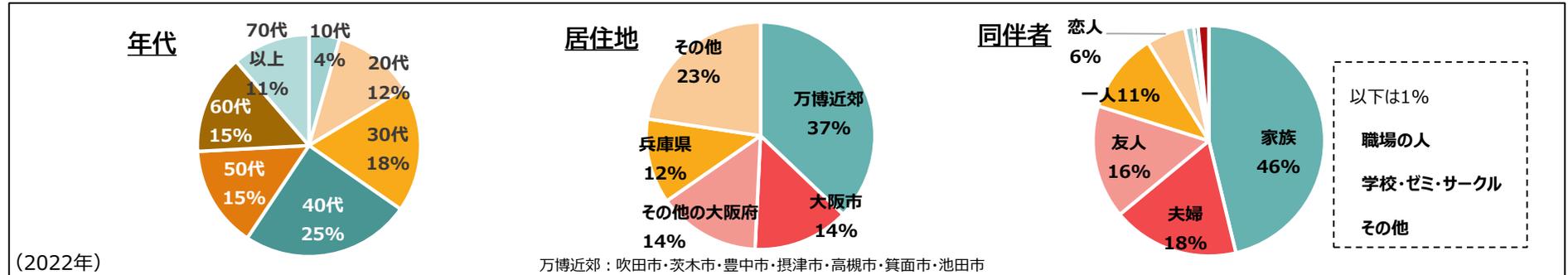
イルミナイト万博



ドライブインシアター

③アンケートによる傾向

年代は40代・30代・50代の順に多く、居住地は万博記念公園近郊が約4割、大阪府外(兵庫県とその他計)も約4割です。同伴者は「家族」が約5割、次に「夫婦」、「友人」と続きます。来園目的は「イベント参加」が最多、次に「子供を遊ばせるため」「花や樹木の鑑賞」「太陽の塔」と続きます。各施設個別「良い」「やや良い」の比率合計は、2018年度と比較してほとんどの施設で増加しています。



(5) その他

公園はレクリエーションの場であるだけでなく、災害時には避難等の用に供される公共空地です。大規模公園である万博記念公園は、大規模災害の発生時には府民を守るための活動・備蓄拠点の役割を果たします。また吹田市、茨木市及び摂津市の地域防災計画に基づき、災害時には地域の人々の避難場所として活用されます。

○大阪府北部広域防災拠点、後方支援活動拠点（「大阪府地域防災計画」による位置づけ）

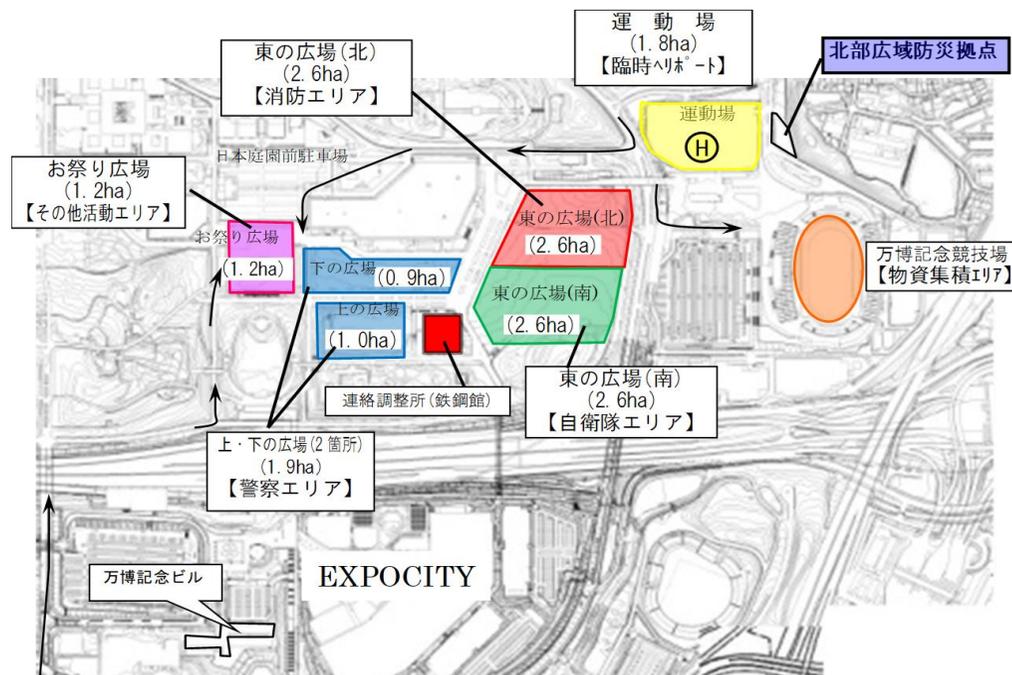
大阪府では、大規模災害発生時に、府民を災害から守るための活動・備蓄拠点として、広域防災拠点を府内3カ所（北部・中部・南部）に整備しています。

万博記念公園は、大阪府北部広域防災拠点に指定されており、公園内には、大阪府北部広域拠点の備蓄倉庫が設備され、被災した府民のための非常用食料や毛布等を保管しています。また、災害時には隣接する万博記念競技場を「物資集積エリア」、運動場を「臨時レポート」として活用します。

警察・消防・自衛隊等の集結地・駐屯地としてお祭り広場・上の広場・下の広場・東の広場を活用し、連絡調整所としてEXPO'70パビリオンを活用するなど、後方支援活動拠点としても位置づけられており、関係機関と連携して地域を守る機能を担っています。

○広域避難地（吹田市、茨木市、摂津市地域防災計画による位置づけ）

公園全域が広域避難地に指定されており、災害発生時には、大人数を収容できる避難場所となります。



【大阪府広域的支援部隊受入計画（2022年5月）】

3. 2015年11月策定の将来ビジョン (旧ビジョン) の概要

(1) 旧ビジョンの概要

2015年11月、長年にわたって守られ、育まれてきた万博記念公園の魅力を大切にしながら、新たな魅力を創造し、さらに活性化するため「日本万国博覧会記念公園の活性化に向けた将来ビジョン」を策定しました。

旧ビジョン概要

基本テーマ	人類の進歩と調和
基本理念	緑に包まれた文化公園
めざすべき公園像	緑と文化・スポーツを通じて人類の創造力の源泉である生命力と感性が磨かれる公園
4つの目標	①人と自然の調和 ②世界への文化と美の発信 ③人々の交流と創造 ④持続的な魅力の創造
7つの基本方針	①シンボルゾーンを中心に文化と美を体験・創造し発信する公園 ②地球環境保全・再生に貢献する公園 ③緑の中で人々が憩い活動し自然の美に感動する公園 ④国内外から多くの人々が訪れる公 ⑤健康づくりや多様なライフスタイルを実践できる公園 ⑥全ての人々が安心して快適に利用できる公園 ⑦持続可能な運営・財務体制を有する公園

(2) 旧ビジョンの主な成果

将来ビジョンの実現に向け、これまで、太陽の塔の内部再生事業、万博の森づくり、1970年大阪万博50周年記念事業、指定管理者制度の導入、万博記念公園駅前周辺地区活性化事業等に取り組んできました。

主な成果	概要
<p>①太陽の塔内部再生事業</p> 	<p>太陽の塔の内部再生事業として、「生命の樹」「地底の太陽」を復元しました。現在、太陽の塔は緑の中で悠然と屹立していますが、もともとは、来場者の頭上をおおう近未来の「空中都市」である丹下健三の大屋根をボカン！と打ち破るために岡本太郎が造った、「ベラボー」な太古の塔でした。「太陽の塔」が象徴する、「根源から噴きあげて未来に向かう生命力」。生命の樹はアメーバから八虫類、恐竜、人類へと至る生命のエネルギーを表現し、2018年3月から48年ぶりに内部を公開しました。</p>
<p>②万博の森づくり</p> 	<p>万博の森は、緑を切り拓き人工的に造成された博覧会の跡地を、再び森に還すものです。「自立した森づくり」をめざした取り組みが行われてきましたが、毎年少しずつ森に人の手を加えて、長期的に生物多様性が豊かで、多様な景観を有する森へ転換を図ることとし、「万博の森育成等計画」を策定、「生物多様性の豊かな森」「人と自然がふれあえる森」をめざすべき森の姿と定め、4つの樹林タイプ（緩衝林、保全重視林、保全・利用林、利用重視林）での健全な森づくりを進めています。</p>

主な成果

③1970年大阪万博50周年記念事業



概要

1970年大阪万博50周年記念事業実行委員会（構成団体：大阪府、吹田市、大阪観光局）において、新型コロナウイルスとの共存を前提に社会経済活動を再開・維持していくとの考え方のもと、「1970年大阪万博50周年記念プログラム」を実施しました。50周年記念プログラムの期間中、約13,000名が参加し、万博記念公園の魅力を発信しました。

【開催期間／イベント】

■「1970年大阪万博 50周年記念セレモニー」

- ・2020年10月10日（土）
- ・セレモニーでは、1970年大阪万博50周年をお祝いするとともに、2025年大阪・関西万博に向けて機運を盛り上げました。

■「1970年大阪万博50周年記念プログラム in 紅葉まつり」

- ・2020年11月7日（土）～12月6日（日）
- ・EXPO'70トリップツアー、EXPO'70復刻スタンプコレクション、EXPO'70謎解き in 万博の森、EXPO'70思い出のレストラン、EXPO'70 MUSEUM（※2020年11月7日～2021年1月31日）

■「1970年大阪万博50周年記念プログラム in 大阪日本民芸館」

- ・2021年1月11日（月・祝）～1月31日（日）
- ・根の力 -THE POWER OF ORIGIN-

【大阪万博50周年記念展覧会】

大阪府において、大阪万博50周年を記念する展覧会を東京・天王洲で、2020年2月15日（土）～24日（月）に開催しました。展覧会の開催を通じて、1970年大阪万博の魅力を再発見し、万博記念公園へのさらなる誘客を図るとともに、2025年大阪・関西万博の機運醸成につなげていきました。

主な成果	概要
④指定管理者制度の導入	文化・観光拠点化の取組みの加速化やこれに相応しいサービスの提供、更なる魅力創出や賑わいづくり、利用者の満足度向上などを図るため、万博公園内の「公の施設」である「大阪府立万国博覧会記念公園」の管理運営について、指定管理者制度を導入することとし、2018年10月から民間事業者による管理運営を行っています。
⑤万博記念公園駅前周辺地区活性化事業 	万博記念公園駅前周辺地区活性化事業は、「大規模アリーナを中核とした大阪・関西を代表する新たなスポーツ・文化の拠点」を推進する事業。公募の結果、大阪府日本万国博覧会記念公園活性化事業者選定委員会により、アリーナを中核とした、ポストコロナ時代における新しいまちづくりの提案が選定されました。18,000人を収容できる世界基準のアリーナと、それと相乗効果を発揮する、ホテル、商業施設、オフィス、レジデンスを段階的に整備する大規模複合開発事業です。
⑥日本庭園の魅力発信 	日本庭園の魅力を端的に発信するため、景観に優れた見所を日本庭園「八景」と名づけ、案内板の設置や、園内の銘木その他の鑑賞ポイントの案内サイン、解説板（多言語）の設置等を進め、それらを巡るモデルコースの設定・紹介をするなど、来園者が鑑賞しやすい、楽しみやすい環境整備、情報発信を進めました。
⑦公園施設の整備	公園内における施設や案内図、誘導サインについて、多言語化を進めるとともに、洋式化・多目的トイレ設置等のトイレ改修工事など、園内の施設整備を実施しています。

4. 社会状況の変化への対応

(1) 社会状況の変化と求められる対応

インバウンド需要の増大と新型コロナウイルス感染症の感染拡大、2025年大阪・関西万博の開催、国際目標であるSDGs達成に向けた取組みの進展、DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進等、万博記念公園を取り巻く社会状況は大きく変化しています。

(主な状況の変化と対応)

インバウンド需要の増大と新型コロナウイルス感染症の感染拡大

訪日外国人客数は、2013年から2019年まで毎年過去最高を更新しました。現在は、新型コロナウイルス感染症の影響で来園者数が大きく減少していますが、今後のインバウンド需要拡大を見据え、「新しい生活様式」を踏まえつつ、外国人観光客を呼込む取組みが必要です。

2025年大阪・関西万博の開催

大阪・関西万博の開催を契機に、改めて大阪万博を記念する公園のあり方を見つめなおし、その価値や魅力の明確化、歴史の継承・発展を通して、万博記念公園のさらなる活性化を図るとともに、大阪・関西万博の成功に向けた連携・協力を進めていくことが必要です。

SDGs達成に向けた取組みの進展

持続可能でよりよい世界をめざす国際目標の達成に向け、多様な主体による行動や協働が求められる中、万博記念公園としても、自主的な取組みを実施することが必要です。

DXの推進

あらゆる産業において競争力維持・強化のためDXが推進される中、新型コロナウイルス感染症の影響により、さらにDXが進展しています。万博記念公園においても、利便性・快適性・魅力等を向上するため、DXを推進することが必要です。

その他、「大阪都市魅力創造戦略2025」において、万博記念公園が「世界第一級の文化・観光拠点の『進化・発信』」とする重点取組みと位置付けられたことなど、進行する人口減少・少子高齢化の中、様々な社会状況の変化に的確に対応した公園の魅力づくりを進めていく必要があります。

(2) 新たな将来ビジョンに盛り込む視点

旧ビジョンでの取組みの成果や社会状況の変化を踏まえ、万博記念公園のさらなる活性化に向けて、新たな将来ビジョンに盛り込む視点を示します。

レガシーの再生・継承

太陽の塔を代表とする約19万点に及ぶ大阪万博のレガシーの維持保全を明確化するとともに、世界中の視線が再び大阪に集まる2025年大阪・関西万博のインパクトを活かし、大阪万博の新たな魅力を発信していく。また、高度に発展する科学技術と人間性の調和をめざした「人類の進歩と調和」など大阪万博の理念もレガシーとして位置付け、今後の取組みにつなげていく。

多様性への対応

年齢、性別、障がいの有無、国籍等、多様な人々が利用している万博記念公園においては、大阪万博の基本理念、テーマに基づき、多様な価値観を理解し認め合い、多様なニーズに対応していく。

持続可能な未来社会への貢献

生物多様性の向上を進める「万博の森づくり」の意義を共有し、より多くの人に参加してもらう等、持続可能な未来社会に貢献する。また、未来の主役である子ども達にもフォーカスしていく。

文化・スポーツを拠点とする新しいライフスタイル

「万博記念公園駅前周辺地区活性化事業」との連携等により文化・スポーツの拠点形成を図り、国内外から多くの人々を呼び込み、新しいライフスタイルを体験できる場としていく。

5. 日本万国博覧会記念公園の 活性化に向けた将来ビジョン2040

(1) さらなる活性化に向けた考え方

【基本テーマ】

人類の進歩と調和

【基本理念】

緑に包まれた文化公園

【めざすべき公園像】

緑と文化・スポーツを通じて人類の創造力の源泉である生命力と感性が磨かれる公園

【存在意義】

大阪万博の精神と文化遺産を継承するとともにその再生を図り、多様な人々や自然とつながる持続可能な未来に向かう交流の場を生み出す

目標 1

**多様な人々が交流交歓を通じ、
喜びや希望を感じられる場の
実現**

目標 2

**豊かな未来を考え、
行動を促す場の実現**

目標 3

**世界に誇る文化・
スポーツ拠点の形成**

基本方針 1

**将来にわたり、すべての人が安
心して快適に利用できる、多様
性と調和に満ちた公園**

基本方針 2

**レガシーの活用と、万博の森づ
くりの文化活動等を通じ、未来
を創造する力を育む公園**

基本方針 3

**文化・スポーツの拠点として、
国内外から観光客を含む多く
の人々を呼び込み、新しいラ
イフスタイルを体験できる公園**

～さらなる活性化に向けて～

「基本テーマ」は、今日なおその意義を失わない普遍的なテーマであること、また「基本理念」のもとで、森林の育成やレガシーの継承・活用等の取組みを継続していくべきこと、さらに「めざすべき公園像」は、緑に包まれた文化公園の中で、文化の創造発信やスポーツを楽しむ公園づくりを意図したものであることから、旧ビジョンの基本テーマ、基本理念及びめざすべき公園像を継承します。

これにより、長年にわたって守り育まれてきた万博のレガシーを次世代に継承し、大阪万博を記念する緑に包まれた文化公園として、これまでの取組みを継続・発展させることで、未来を見据え、さらなる活性化を図り、人類の創造力の源泉である生命力と感性が磨かれる公園の実現をめざします。

これらを通じて、世界における万博記念公園の存在感を確立するため、新たに社会との関わり方を明確に示す「存在意義」を設定し、府民をはじめ、日本ひいては世界の人々に向けて、万博記念公園の魅力の積極的な発信を行っていきます。

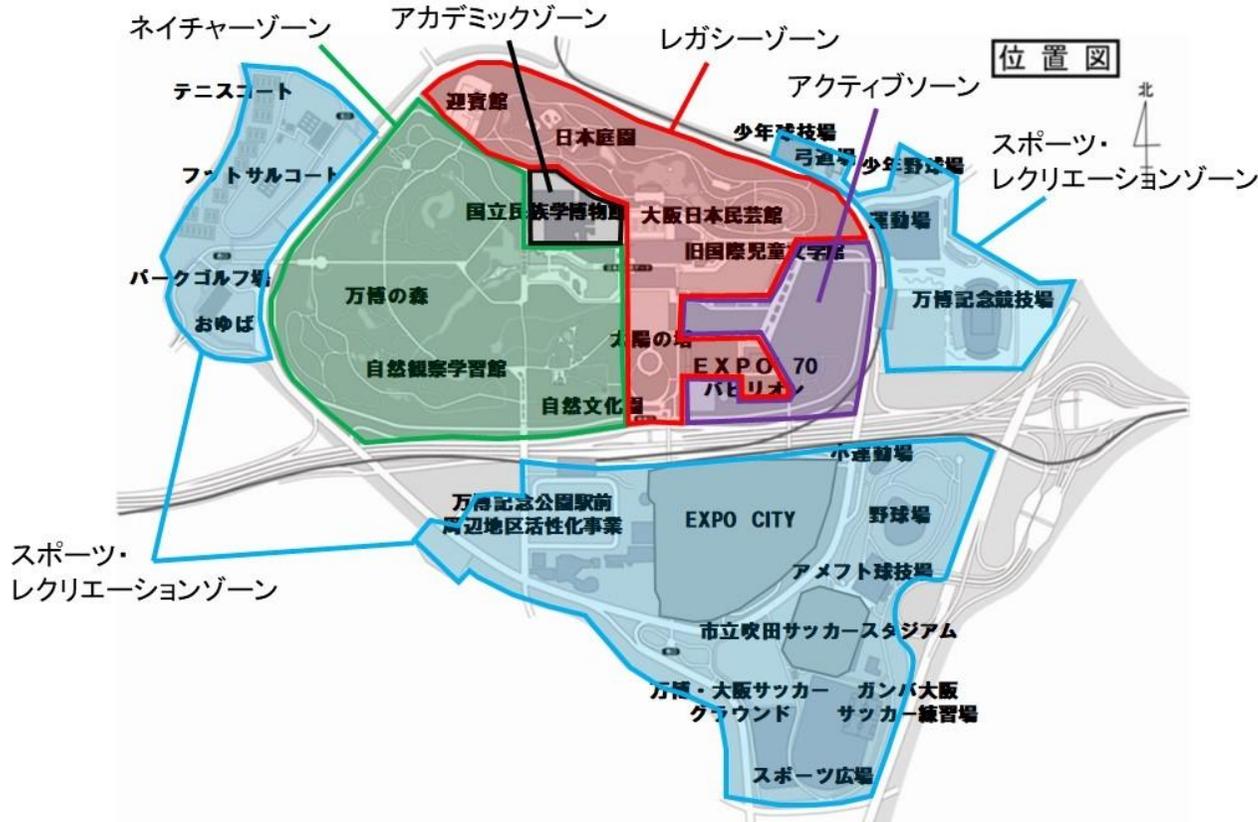
そのうえで、万博記念公園のポテンシャルを活かした、「3つの目標」とその実現に向けた「3つの基本方針」を掲げ、より多くの方に利用していただけるよう、さらなる活性化をめざします。



(2) ゾーニングの再確認と取組みエリア

これまで万博記念公園は、「日本万国博覧会記念公園基本計画」に基づき、「緑に包まれた文化公園」として整備が進められてきました。

一方、基本計画策定以降、太陽の塔等のレガシー存置が決定されたなどの変化があったことから、各ゾーンの性格を明らかにするため、現況の土地利用をもとにゾーニングの再確認を行ったうえで、新たに目標と基本方針の実現に向けた取組みが展開される主なエリアを設定します。なおこのゾーニングは、取組みが行われる場所を制限する趣旨のものではないため、実際の取組みは具体的な内容に応じて、園内の適切な場所で展開されることとなります。



◆レガシーゾーン

太陽の塔やお祭り広場等、大阪万博の遺産をしのぶ場

◆スポーツ・レクリエーションゾーン

次世代型のライフスタイルを楽しむ、インターナショナルな場

◆ネイチャーゾーン

人間と自然の共生を象徴する場

◆アカデミックゾーン

文化人類学・民族学の調査・研究が行われ、様々な民族の息吹が伝わる場

◆アクティブゾーン

芝生広場を中心とする、日常の憩いの場と非日常的なイベントの場

(3) 目標・基本方針

①目標1・基本方針1

目標1 多様な人々が交流交歓を通じ、喜びや希望を感じられる場の実現

「人類の進歩と調和」を基本テーマとする万博記念公園として、あらゆる人々が多様性を認め合い、調和のうちに交流交歓する場を通じて、人々が未来への明るい希望を感じられる公園をめざします。

基本方針1 将来にわたり、すべての人が安心して快適に利用できる、多様性と調和に満ちた公園

年齢、性別、国籍、人種、障がいの有無等にかかわらず、あらゆる人々がストレスなく、安全安心に利用できる公園づくりに向けて、一定のルールやマナーのもとで、来園者一人ひとりがそれぞれの違いを認め合い、ともに喜びや希望を感じることができるよう、ダイバーシティ&インクルージョンを推進します。また、今後も多くの人々に利用してもらえる公園となるよう、施設保全や魅力維持向上に向けた取組みを継続して行うとともに、有事の際は公園の防災機能を発揮し地域を守る存在となります。これらの実現に向け、安定的な運営を行い、公園機能維持・魅力向上に努めます。

i) 取組みの方向性

- A. 誰もが安全安心、快適に公園を利用できるよう、バリアフリー化、ユニバーサルデザインの導入等に取り組むとともに、DX等を推進し、ハンディキャップの解消やより快適な公園利用等、利用者の多様なニーズに対応できるよう環境整備を進める。施設改修計画に基づき、来園者が安心して快適に利用できるよう公園施設の計画的な整備・保全・改修を進めるとともに、民芸館、EXPO'70パビリオン、太陽の塔等レガシー施設等の大規模更新を行う。（ゾーン：全域）
- B. 様々な立場の人が交流交歓し、喜びや希望を感じることができる公園をめざす。（ゾーン：全域）
- C. 日々の生活によりそう普段使いの公園をめざすとともに、イベントなど各種催しや新しい取組み等による非日常を楽しむための場所づくり等、両面から取り組む。（ゾーン：アクティブゾーン）
- D. 指定管理者制度による民間ノウハウの活用や、DX等の推進により、効果的・効率的な公園運営を行うことで、持続可能な財務運営体制づくりに取り組む。（ゾーン：全域） 等

②目標 2・基本方針 2

目標 2 豊かな未来を考え、行動を促す場の実現

技術の進歩がもたらした社会問題を、人々の交流交歓により生まれる知恵で解決を図り、豊かな未来へ向かって発展することをめざした大阪万博の理念と、生物多様性向上を試み続ける万博の森は、どちらも未来をめざす人々の営みを象徴するものです。未来への実験場であった大阪万博のレガシーの活用や万博の森づくりの取組み等を通じて、豊かな未来について考え、行動を促す場となることをめざします。

基本方針 2 レガシーの活用と、万博の森づくりの文化活動等を通じ、未来を創造する力を育む公園

大阪万博を経験していない若い世代や大阪万博を知らない世界の人々へ、大阪万博のレガシーを広く発信することにより、レガシーに触れた人々が、よりよい社会を考え、未来を創造する契機となることをめざします。また、万博の森づくりをはじめとする様々な文化活動等を行い、未来を創造する力を育む場づくりに取組みます。このため、多様な主体と連携しながら、万博記念公園の豊富なリソースを最大限に活用し、未来に向かう交流交歓の場を多世代に渡って形成します。その際、未来のための取組みであるSDGsについて、万博記念公園のリソースを活用して達成をめざす目標を次のとおりとします。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



4 質の高い教育をみんなに 5 ジェンダー平等を実現しよう 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 10 人や国の不平等をなくそう
11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任 つかう責任 15 陸の豊かさも守ろう 16 平和と公正をすべての人に

ii) 取組みの方向性

E. 約19万点に及ぶレガシーの保存・活用・魅力向上を図るため、レガシーの電子化とともに、「（仮称）アーカイブセンター」の設置を行い、豊かな未来をめざすための発信を積極的に進める。太陽の塔は重要文化財指定のうえ世界遺産登録をめざす。日本庭園は登録記念物登録、将来的に名勝指定もめざす。また、2025大阪・関西万博と連携し、相乗効果を図る。

（ゾーン：レガシーゾーン）

F. 公園の豊富なリソースを活かし、未来を考える場としての利活用を推進するため、未来の主役である子どもたちをはじめ、多世代が参画する体制づくりや環境整備を行い、STEAM教育等が展開される場をめざす。（ゾーン：ネイチャーゾーン）

G. 万博の森づくりを継続し、豊かな生物多様性を持ち、人と自然がふれあえる健全な森をめざす。ボランティア等の様々な主体が森づくりに関わる仕組みをつくる。研究の場として、さらにレクリエーションや健康増進の場としての活用を広げる。（ゾーン：ネイチャーゾーン）

H. 国立民族学博物館等と連携し、学術的な交流の場として発展をめざす。

（ゾーン：アカデミックゾーン） 等

③目標 3・基本方針 3

目標 3 世界に誇る文化・スポーツ拠点の形成

世界第一級の文化・観光拠点づくりをめざし、万博記念公園が持つポテンシャルを最大限に活用して、最先端の文化・スポーツの拠点を形成することで、国内外から多くの人々を惹きつける公園をめざします。

基本方針 3 文化・スポーツの拠点として、国内外から観光客を含む多くの人々を呼び込み、新しいライフスタイルを体験できる公園

公民連携等により、緑に包まれた公園でレクリエーション、健康づくり、ショッピング、教育、就労等複合用途による新しいライフスタイルが体験できる文化・スポーツの拠点として、これまでにない新しい公園づくりを進めていきます。

あわせて、世界が再び大阪に注目する2025大阪・関西万博のインパクト等を活かし、様々な価値観を持つ国内外の人々が集い、つながり合い、交流できる公園として、国内外への積極的な魅力発信を行います。

iii) 取組みの方向性

- I. インターメディア的なアートの実験都市であった大阪万博を記念し、大阪万博や万博の森などをテーマとするアート&サイエンスフェスティバルの実施や、EXPO'70パビリオン別館等新たな施設整備により都市魅力の創出を図るとともに、万博記念公園や大阪万博レガシーの効果的なPRを行う。(ゾーン：全域)
- J. 国内外の人々が訪れたい公園をめざして、民間活力を導入し、公園内外のさまざまな団体・施設と協力・連携しながら、世界に誇る文化・スポーツ拠点として、新しい魅力創出等、さらなる活性化を図る。(スポーツ・レクリエーションゾーン)
- K. 万博記念公園駅前周辺地区活性化事業の推進・連携等を通して、これまでにない新しい交流交歓のあり方を探る先進的エリアとして、新しいライフスタイルを体験できる拠点づくりに取り組む。(ゾーン：スポーツ・レクリエーションゾーン) 等

(4) 計画期間等の考え方

大阪万博50周年を経て策定される新たな将来ビジョンは、次の夢を語るものとして大阪万博100周年への方向性となります。また、万博記念公園駅前周辺地区活性化事業の事業期間も50年であることから、万博記念公園全体として相乗効果を生み出していくためにも、50年先の未来を視野に入れることが重要です。

そのうえで、事業の具体的な展開を図る観点から、見通しが可能な計画期間を設定することとし、SDGs達成期限である2030年を結節点として、それまでの約10年間と、その10年後の「2040年」までを計画期間として設定します。

具体的な取組みについては、公園を取り巻く環境の変化に柔軟に対応しながら取組みを進めていくため、5年程度で更新するアクションプランを策定し、さらに必要に応じて適宜見直しを行うこととします。

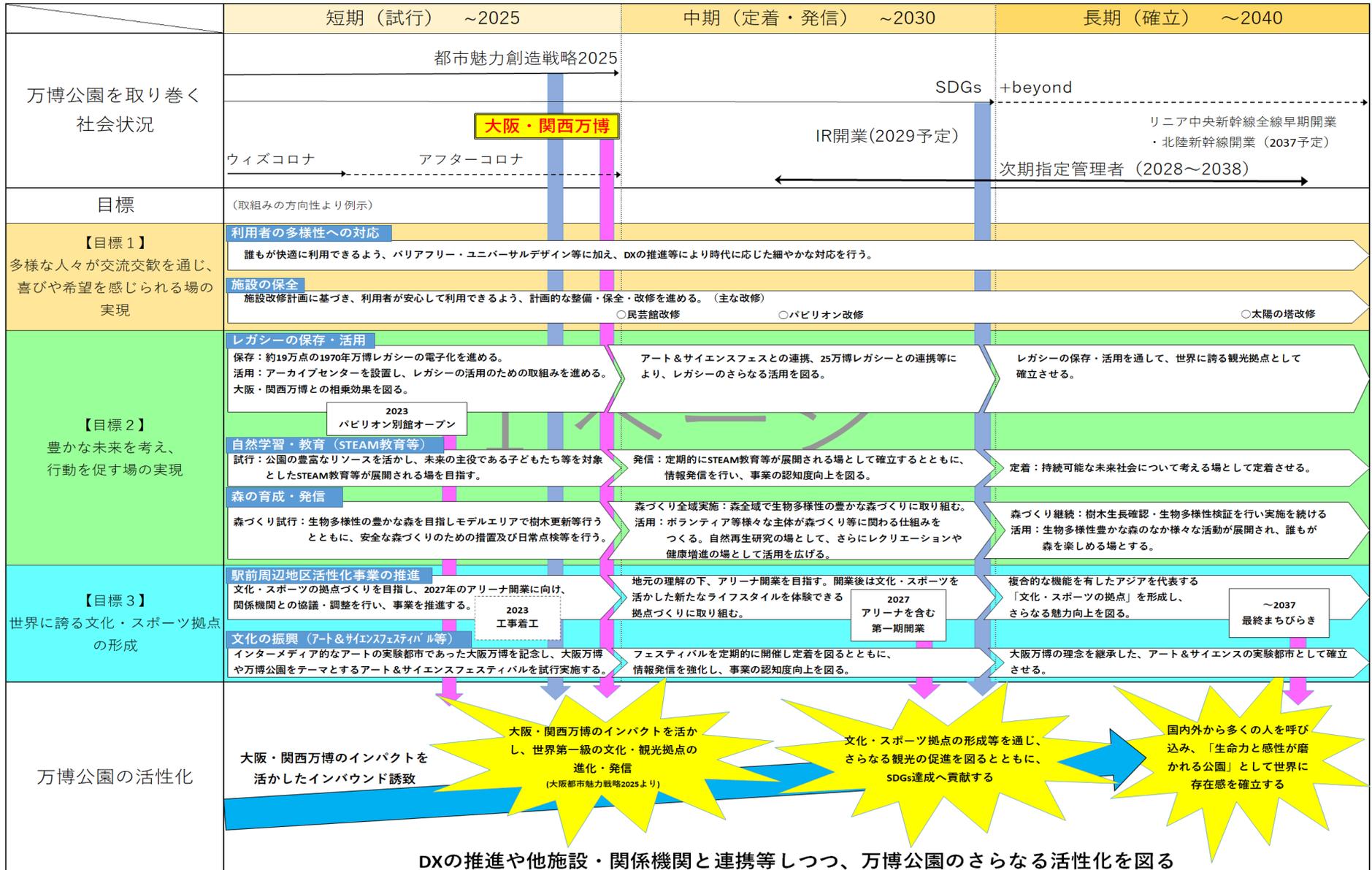
その際、2040年までの計画期間を下記3つに区分し、段階的に万博記念公園の活性化を図っていきます。

また、将来ビジョンの達成状況の確認・評価については、旧ビジョンにおいて自然文化園の来園者数という単一の指標を設定してきましたが、具体的な施策を踏まえ、来園者数に加え複数のKPIをアクションプランで設定します。

短期 (2025年度まで)	3つの目標実現に向けた取組みに着手し、大阪・関西万博のインパクトも活かしながら、「世界第一級の文化・観光拠点の『進化・発信』」を行います。
中期 (2030年度まで)	世界最先端のアリーナを中核とする文化・スポーツ拠点の形成等を通じ、さらなる観光の促進を図るとともに、2030年を目標年度とするSDGs達成に貢献します。
長期 (2040年度まで)	万博記念公園駅前周辺地区活性化事業との相乗効果等により、国内外からより多くの人々を呼び込むことで、「生命力と感性が磨かれる公園」として世界における存在感を確立し、さらなる都市の魅力の創出を図ります。

6. さらなる活性化に向けたロードマップ°

さらなる活性化に向けたロードマップ



DXの推進や他施設・関係機関と連携等しつつ、万博公園のさらなる活性化を図る

用語説明

初出 ページ	用語	解説
1	シンボルゾーン	日本万国博覧会会場の中心部に設定され、中核的施設が集められたゾーン。会場の中心を南北に縦断する、幅150m、長さ1,000mの巨大な空間であり、多数の人々の交歓の場であるとともに、テーマ「人類の進歩と調和」を集約的に表現する場であった。
1	DX（デジタルトランスフォーメーション）	デジタル技術及びビッグデータにより、社会や生活、ビジネスの形やスタイルを変革すること。
1	レガシー	遺産、受け継いだもの。
1	2025年大阪・関西万博	「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマを掲げ、「未来社会の実験場」というコンセプトの下、「SDGs達成への貢献」、「日本の国家戦略Society5.0の実現」をめざして、大阪夢洲において2025年4月13日から10月13日にかけて開催される国際博覧会。 ※Society5.0…サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会のこと。狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く、新たな社会を指す。
1	SDGs（持続可能な開発目標）	2015年9月に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載されている、持続可能でよりよい世界をめざす国際目標。「誰一人取り残さない持続可能な世界の実現」に向け、17の持続可能な開発目標（ゴール）と、それらの目標を達成するための169の具体的なターゲットを設定。
31	ダイバーシティ&インクルージョン	多様性を受け入れ包摂することで、組織や社会の活力向上を図ること。
34	重要文化財	文化財保護法に基づき指定される重要な文化財。重要文化財のほか、国宝、史跡、名勝、天然記念物が指定される。
34	世界遺産	地球の生成と人類の歴史によって生み出され、過去から現在へと引き継がれ、そして私たちが未来の世代に引き継いでいくべきかけがえのない宝物。1972年にユネスコで採択された「世界の文化遺産および自然遺産の保護に関する条約」に基づき、「文化遺産」、「自然遺産」、及びその両方に登録される「複合遺産」に区分される。
34	登録記念物	文化財保護法に基づき登録される、保存及び活用のための措置が特に必要とされる記念物。

用語説明

初出 ページ	用語	解説
34	名勝	文化財保護法で、「庭園，橋梁，峡谷，海浜，山岳その他名勝地で我が国にとって芸術上又は観賞上価値の高いもの」のうち重要なもの。
34	STEAM教育	STEAMは、Science, Technology, Engineering, Art(s), Mathematicsの頭文字をとった名称であり、課題発見から課題解決まで、協働にも重きを置く、教科横断的な探究学習の意味で使われることが多い。
36	インターメディア	絵画や音楽等、従来の個別独立したメディアとは異なり、光と音と映像等が融合した新しいメディア。
37	KPI	重要業績評価指標（Key Performance Indicatorの略称）。
39	リニア中央新幹線 全線早期開業・ 北陸新幹線開業 (2037年予定)	リニア中央新幹線：財政投融資の活用により最大8年前倒した場合の開業時期。 北陸新幹線：環境アセスメント手続き完了後、切れ目なく着工した場合の開業時期。

※また、文中の肩書はすべて当時のもの。